

福津 心しぎ発見



悩める恋心 なちごやま 名見山万葉歌碑

市の北部、国道495号沿いにあるあんずの里運動公園。ここには古いにしえの時代の女流歌人の恋心が、碑に刻まれています。今月は名見山万葉歌碑を紹介します。



▲丘の中腹にあるレストラン手前に歌碑はあります

「大汝 おほなむら 少彦名の すくなひこな 神こそは
名付け始め なづけはじめ 名のみを な 名見
山と負ひて やま わが恋の こひ 千重の一
重も ちげ 慰めなくに」
日本最古の歌集である万葉集を代
表する女流歌人、大伴坂上郎女（お
おとものさかのうえのいらつめ）が
名見山越えの峠道で詠んだ歌です。
訳すと「名見山の名は、大汝（大國
主命）と少彦名命がはじめて名付け
られた名ですが、心がなごむという
名を背負っているだけで、私の苦し
い恋の千のうちの一つさえも慰めて
くれない」となります。

名見山越えとは、奴山から宗像
市田島へ抜ける峠道です。大伴坂
上郎女は宗像大社方面へと向かう
峠の道中で休憩をとりながら、美
しくも荒々しい女界灘の海を眺
め、苦しい恋に悩む女心を歌った
のでしょうか。

歌碑は、あんずの里運動公園の
入り口から、園内奥の上の駐車場
へと向かう途中に立っています。

